



# 志木二小だより

令和元年11月号

志木市立志木第二小学校

志木市館1丁目2番1号

TEL 472-0540

学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子**

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぽぽ	10/24現在	昨年同時期
	75	95	72	77	87	100	13	519	535

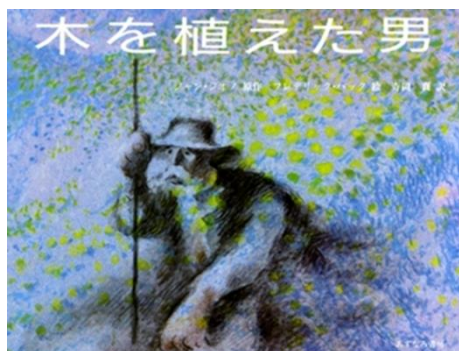


## 読書の秋に～

校長 齋地 満

台風19号が、東日本に記録的な大雨をもたらし、各地で洪水や土砂崩れ、河川の決壊が起き、水道や電気などのインフラや交通にも大きな影響が出ました。被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。志木市でも台風警戒のため、避難勧告等が発令され、二小にも避難所が開設されました。私も学校に待機しましたが、一晩中柳瀬川の様子が変わるライブカメラ映像を見て、氾濫するのではないかとハラハラしていました。保護者や地域の皆様におかれましても、気が気でない時間を過ごされたことかと思ひます。子どもたちからも、「怖かった」「道が水でいっぱいだった」「水や食べものをたくさん用意した」などの話を聞きました。改めて災害の恐ろしさと備えの大切さを痛感しました。

さて、「読書の秋」にちなんで、「木を植えた男」という本を紹介します。絵本なのですが、フランスの作家ジャン・ジオノの短編小説で、高学年でも楽しめる内容です。約50ページと短く、30分ほどで読むことができます。同作を原作とした短編アニメは、アカデミー短編アニメ賞を受賞しました。物語は、旅をしていた若者が、荒野で一人暮らしをしている寡黙な初老の男に出会うところから始まります。男の名はブフィエ、住む人の心がすさむほど荒れ果てた土地を蘇らせようと思い立ち、毎日毎日100粒のどんぐりを植え続けていました。すでに3年間で10万個の種を植え、そのうち根づいたものが1万本ほど……。そうやって、不毛の地に生命の種を植え付けていました。5年の歳月を戦場で過ごした若者が、再び男を訪ねると、荒野を覆うようにナラの林がありました。戦争という、途方もない破壊をもたらす人間が、一方では、偉業を成し遂げていたのです。その後もブフィエは幾多の挫折にあいますが、くじけることなく、一人で木を植え続けます。やがて年月が流れ、いつしか林は広大な森となり、干上がった川に水が戻ります。さびれた廃墟の村には人々が集まり、楽しく希望あふれる生活ができるようになります。しかし、彼らはブフィエの存在も、一人の男が森を再生したことも知りません。名誉も報酬も求めない、人びとのことを思いやる優れた行いは、長い年月をかけて確かな証として地上にしるされ、のちの人々にあまねく恵みをほどこしたのです。



ジャン・ジオノ 原作 寺岡 襄 訳  
フレデリック・バック 絵 あすなる書房

信念をもってやり遂げることは大変です。しかし、充実した日々と達成感、成長とともに人生を豊かにしてくれます。ぜひ、そのような体験をお子さんに伝えてみてはどうでしょうか。

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくことができます。機会があれば、図書館や書店で手に取って、ご覧になってください。